

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



# ぷらネット

第25号



平成25年度

## 「障害者週間」市民のつどい

平成25年11月30日(土)

会場：与野本町コミュニティセンター

全スポの代表選手視覚障害の山崎道子さんから説明を受ける生徒



見えなくなつて

スポーツは楽しめるんだね

与野西中卓球部の体験

# 式典

## 体験作文・ポスター表彰式

今年度のさいたま市「障害者週間」市民の集いは本間和義副市長の挨拶から始まり、「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」で選ばれた4名の受賞者への表彰状授与が行われました。

体験作文では、常盤小学校4年の岩下和日香さんの「相手を思う心」と土屋中学校2年の赤岩明日香さんの「優しい社会をもとめて」が表彰され、お二人は力強い朗読をされていました。

(左 岩下さん・右 赤岩さん)



峯村真愛さんの作品



荒牧叶乃さんの作品



ポスターは、上木崎小学校6年の峯村真愛さんの、花火を見上げている車いすの人たちを描いた作品。大成中学校1年の荒牧叶乃さんのロンドンパラリンピックで金メダルを獲得したゴールボールの迫力あるシーンが再現されました。市民の集いに参加された方たちの心に響いた作品だったのでないでしょうか。

障害福祉課 矢部 章

## 視覚障害者の卓球から生徒たちが学んだもの

与野西中学校卓球部顧問

甲斐 隼人

「盲目の人の卓球」最初にそう聞いたときは、目が見えないのにどうやって卓球をするのだろうか?と思う、プレーの様子が全く想像もつきませんでした。

当日、生徒を連れて、S T T卓球を直に見たときは衝撃的でした。選手の方々は、音だけでボールの位置を判断し、タイミング良く打ち合っていたのです。



体験コーナーで手話や幻覚幻聴を見たり聴いたり……こわくなかったかな



実際に、自分も目隠しをして体験させてもらうと、見ているよりもさらに難しかったです。生徒たちも凄く興味をもって、楽しみながらやっていました。また、手話体験では、身振り手振りで人に想いを伝えることの難しさを、生徒は学ぶことができましたと思います。

体験を終えて帰るときに、生徒が「またやりたいです!」と言っていました。

今回の体験を通して、障害者の方々と接するときに、優しく手を伸ばせるような人間になってほしいと思います。

### 基調講演

## くまぷー・わかりあえるためのふたり

平成二五年度「障害者週間」の「くまぷー基調講演」に参加しました。聴覚障害者である宮本さんはどんな人かな？と興味を持って話を聞きました。

くまぷーこと竹田さんは、法定失病の「多発性硬化症」を発症された後、リハビリをして、今では歩けるようになったという話、そして宮本涼子さんの生い立ちから現在に至るまでの話、今では、結婚を約束するまでにお互いの信頼を築いて、全

国各地をライブ、講演をしているとの事でした。

宮本さんが、社会性のなさから、失敗、失態をくり返しながらもくまぷーさんの暖かい指導の下、少しずつ社会性を身に付けてきたという話に感銘しました。また、くまぷーさんも多種多様な技術、能力の持ち主のよう

で、難病を持ちながらも明るく、前向きに活動していることにも感銘しました。

宮本さんの「この人しかいない。ずっと一緒にいたい」くまぷーさんの、「おれがいないと駄目だ」というお互いの気持ちから結婚の約束をしたという話は微笑ましかったです。非常に有意義な時間でした。

さいたま市聴覚障害者協会

青山 淑子



「いいねえ」という声がきこえてきそうな…

今年には作品の応募がたくさんありました。内容的にもバラエティーに富んでいて、視覚障害の方々の生け花は、指導者といっしょに楽しんでいる様子がいいなあという感じでした。

書道の大作も見事なものでしたが、作品そのものは勿論、それを鑑賞しながらたくさんの方が話し合っていたり、一人う



細かいけど大胆なちぎり絵の作品



額に入れるとみんなりっぱ！

## 作品展示

つとりと見とれていたりする姿が印象的でした。  
眺めているだけじゃなく、来年はあなたも出品してみませんか。何でもいいんですから。

# アトラクション

## やさしい歌声

浦和児童合唱団

昭和三十四年設立。小学三年生から六年生までというかわい  
いメンバー。プログラムにもあ  
ったように、変声期前の澄んだ  
音色に引き込まれました。



あなたに

も私にも、

みんな子供

の頃があっ

たはずなの

に、こうい

う機会を大

切にしたい

ですね。

「三十年後

の子どもた

ちへ贈る言

葉」も胸に

沁みる言葉

がありました。

すがすがしい歌声と先生のご

指導が見える、温かいひと時で

した。

## みんなシロウト？ずい

BEYOND THE SEA

BIG BAND

2007年発足のシロウトバンド。エンターテイメントスタイルのステージを考え、お客さんを楽しませるビッグバンド。



さいたま新都心駅

の1階のフロアで

演奏しているのを聞

くとつい入り込んで

聴いてしまう楽しい

バンドです。

伺ったところ、元

プロがお一人、後は

全員素人だそうです

が、迫力に圧倒され

ます。確かに平均年

齢は高そうですが、

仕事以外に興味を持

っている人は、

いつまでも若い。この次お

呼びした時も楽しい楽曲を

聞かせてください。

## とんで、はねて、

楽しんで

ダンスフォーラム

B F クラス

前の晩に会場でリハーサルをさせていただき、会場の様子をすることが出来て出演者たちは安心して本番



を迎えることができました。お

客様は暖かい笑顔でご覧になっ

てくださり、思いきりのびのび

と踊ることができました。

インタビューにも元気に答え

られ、自信を持って二回目を踊

りきり、私たちのエネルギーが

伝わったと思います。本当にし

あわせでした。もつとじょうず

になって、また、みなさんの前

で発表したいです。

アキオキムラ

# 物品販売コーナー

## グリーンフィンガーズの 又ウ焼き販売車

お目見えです

さいたま市のマスコット「ヌウ」がどら焼き風のお菓子になり、市民のつどい開会に合わせて会場の玄関にデイケアグリーンフィンガーズ専用の特設販売車がやってきました。



私はピンチヒッターです

笑顔さえあれば  
よくうれるんです



「今日は、ご来場いただき……」の最初の言葉を発し、ああ始まったと思った瞬間、全身に緊張感が走り、様々な不安の思いが交錯しました。実行委員会の皆様には、ご協力とご尽力をいただき感謝致します。

間近で見た出演者の目の輝きに感動した記憶は、色褪せることはありません。

さいたま市障害福祉課 大久保貴至

各団体の物品販売も、会員の高齢化が進むと品物を運んだりするのも大変です。  
近頃は、ビーズ製品や布製の小物などが並ぶようになりました。作るのも大変ですが、色彩もきれいですし、楽しみながら作っている会もあるようです。

平成二十五年度  
さいたま市障害者社会参加推進事業



(左)猪瀬さん (右)筒井さん

障害があっても  
ありのままに  
生きたいんです

講演会では先天性ミオパチーの猪瀬智美さんと脊髄性筋委縮症の筒井綾香さんのお話を伺いました。

私のことを知ってもらいたくて……  
筒井 綾香

今回『障害があってもありのままに生きたいんです』というテーマの講演依頼を受け、私は『障害がない人の中での生活』という題で話をさせていただきました。障害が分かった時のこと、幼稚園〜現在までどんな生活してきたかについて話し、最後に一曲歌わせていただきました。

長い時間講演をさせてもらうのは初めてのことで、どのように話していいかわかりませんでした。話が得意ではないので、分かりやすくは話せなかったかもしれないですが、私がどう生活してきたか知ってもらいたく、これまでのことをありのままに話しました。

講演の準備段階で、自分が今まででどう過ごしてきたかを振り

返りました。そして多くの人の支えや理解があったからこそ、今の私があるのだということを確認することが出来ました。これから気持ちを忘れずにそ

の出会いを大切に、常に感謝の気持ちを持っていけるような人でありたいと思います、また、新たな人間関係を築いていきたいと思いました。

楽しかった手話講演会

(社)埼玉県筋ジス協会 猪瀬 剛

去る平成25年12月7日14:00浦和コミュニティセンター第13集会室にて、さいたま市社会参加推進事業生活訓練、さいたま市聴覚障害者協会主催により「手話の魅力」というテーマで講演会が開催され、会場は大盛況でした。



さを感じた事はなかったのですが、モンキー高野さんの講演は笑いの要素が満載で、アントニオ猪木、志村けん等のモノマネは爆笑でした。

手話通訳さんがいて高野さんの伝えたい事をほぼ直訳で伝えてくれるので、楽しむ事が出来ました。

今回講師は有限会社手話文化村に在勤され、ボランティア講演等で、日々手話の魅力を伝えているモンキー高野さん(ろう者)でした。

これまで出会ったろう者の方が行なった講演等はあまり面白

ろう者の方との意志疎通は難しく、完全にはできないけれど、意思疎通を良くする事は出来ると思うし、「手話の魅力」を多くの方に伝えていく事が必要だと思いました。

# ♪ LET'S ENJOY! 僕たち私達にも出来る ♪

「皆さん！こんにちわー」牧野アンナ先生の元気なかけ声、そして会場に流れるノリノリな音楽で皆のワクワク感が一気に膨らみます。

二回目となったダウン症児者達によるダンスパフォーマンス。「ラブジャンクス」のメンバーとアンナ先生、香織里先生をお招きしてのダンス体験レッスンが始まります。

初めにラブジャンクスによるダンスパフォーマンス。テレビでもお馴染みのダンスを間近でみて、その迫力と技術の高さに「すごーい！」とみんな尊敬と憧れのまなざしで見入っています。

そしていよいよダンスレッスンです。音楽がかかるとそれぞれが一斉に思い思いに体を動かし踊り始めます。みんな音楽に合わせて本当に楽しそうです。この様子がNHKのニュースにも流れました。

ダンスの大好きなこの子達に楽しい時間をありがとうございました。  
小野寺千絵



## 目に見えない障害「高次脳機能障害」

NPO法人さいたま市障害難病団体協議会

原 榮子

この一三年間、高次脳機能障害の当事者を抱える者として、このたびの講演会は心から待望していました。

講師の先崎章先生は、東京福祉大学社会福祉学部教授として精神保健学・精神科リハビリテーションを担当され、併せて埼玉県総合リハビリテーションセンターで、週二日臨床をご担当の全国でも屈指の高次脳機能障害の専門医でいらっしゃいます。

講演の内容は、①高次脳機能障害とは何か、その背景②高次脳機能障害のリハビリ③家族にとっての高次脳機能障害④家族会の形成と専門家の役割でした。難解なテーマをゆっくりと丁寧に分かり易くお話ししてくださいました。終了後は、大勢の参加者が先生をとり囲み、いつまでもその場から離れませんでしたが、誰にでも起こり得る「目に見えない障害」に対して、大きな共感の輪が広がっていました。



# さいたま市障害者協議会主催 飯田監督による講演と映画上映会を開催しました

平成25年12月11日(水) 午後1時30分  
会場 埼玉県障害者交流センターホール

## 東日本大震災の教訓を生かすために

飯田 基晴 (映像グループローポジション)

ドキュメンタリー映画「逃げ遅れる人々 東日本大震災と障害者」を2013年2月に公開して、1年が経った。上映会は全国各地に広がっており、作り手として私も招かれることがある。

そうした上映の場で観客との質疑応答を通じて、私自身が勉強させてもらっていることを実感している。昨年12月11日に、さいたま市障害者協議会に主催して頂いた上映会も印象的だった。

質疑応答では、さまざまに障害当事者やそのご家族から質問や意見が出た。

精神障害の当事者の方からは、災害時に薬を入手できなくなることへの不安を聞かせてもらった。また、人工透析をしている方から内部障害者の状況も伝えてほしいという訴えがあり、知的障害のお子さんを持つお母さんからも、親の声を伝えてほしいとの要望を頂いた。

「障害」は本当にさまざまであり、その地域や家族構成などの要因も含め、災害時に何が一番困るのかも、それぞれに異なる。

災害時要援護者の作成とその活用、福祉避難所の設置や実際の運営など、災害への備えにはまだまだ多くの課題が

ある。こうしたことを、災害が起こってから考えたのでは遅過ぎる。事前に備えておかねばならない。それが東日本大震災でのなよりの教訓のはずだ。

上映会でひとりひとりの思いを聞くにつけ、この作品をもっと多くの方に観てもらいたい、意識を共有してほしいと思うとともに、今回描けなかったことを含めて、更なる続編を作っていく必要を感じている。



逃げられない、助からない…

それでもあなたの命を守りたいから



# 平成25年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日／場所	参加者数	テーマ・内容等
家族教室開催事業（精神）	9月15日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	71名	「手を差し伸べて支える」アウトリーチ（訪問型）支援とは？ 社会につながる為にどう支え、どう繋げるか 講師：白石 弘巳氏 精神科医 東洋大学ライフデザイン学部教授
家族教室開催事業（身体）	10月6日(日) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（小）	69名	「特別養護老人ホームで暮らす」とは、どのようなものが介護保険制度・施設サービスの種類・入居手続き等 講師：邨山 由紀子氏 特別養護老人ホーム リバティハウス施設長
生活訓練開催事業（身体）	10月26日(土) 大宮ふれあい福祉センター 3F 会議室	86名	「高次脳機能障害とは？」社会の理解と支援を求めて脳外傷等の脳神経の損傷を基盤とする心理、行動上の障害 講師：先崎 章氏 東京福祉大学福祉学部教授
生活訓練開催事業（身体）	11月23日(土) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	55名	「第2回 障害があってもありのままに生きたいんです！」当事者、女性2人による講演 講師：猪瀬 智美さん（先天性ミオパチー） 筒井 綾香さん（脊髄性筋委縮症）
「障害者週間」市民の集い	11月30日(土) 与野本町コミュニティセンター	390名	「障害者週間」を記念して広く障害のある人もない人も一緒に楽しむ催しです。市セレモニー、障害者作品展、講演、JAZZ演奏、ダンス、コーラス、授産品の販売、手話講座、幻覚・幻聴マシーン、視覚障害者卓球(STT)
家族教室開催事業（知的）	12月5日(木) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	70名	「地域でずっと生きるために必要な支援」サービスを使って地域で生活していきたい 講師：中野 敏子氏 明治学院大学教授
生活訓練開催事業（身体）	12月7日(土) 浦和コミュニティセンター 第13集会室	88名	「手話の魅力」手話は言語である。法律家につなげるよう、手話の言語としての魅力を再確認する。 講師：モンキー高野氏
生活訓練開催事業（知的）	12月7日(土) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	145名	「Let's enjoy! 僕たち私達にも出来る」 第二回ダウン症児・者達のダンスパフォーマンス 講師：牧野 アンナ氏 ラブジャンクス
生活訓練開催事業（身体）	12月8日(日) 与野本町コミュニティセンター 多目的室（大）	58名	楽しくできるロコモ体操 第1部 講師：神崎 好嘉氏 元日本理療科教員連盟会会長 第2部 プロのあんま・鍼灸マッサージ師による治療体験、相談
生活訓練開催事業（身体）	26年2月16日(日) 浦和ふれあい館 第一会議室	75名	「オストメイトのための医療講習会」展示会 講師：辻中 眞康氏 自治医科大学附属一般消化器外科 大島 美津子氏 自治医科大学附属退院支援室
生活訓練開催事業（精神）	26年2月23日(日) 浦和コミュニティセンター 第14集会室	51名	「共に作ろうみんなの輪 Part 6」 人と薬との上手な付き合い方を専門家から学ぶ 講師：原 恵子氏 都内精神病院薬剤師

# おもてなしはおみやげとじゅなごうで

## 創立十年を祝う新年交流会

さいたま市精神障害者  
家族会連絡会

沼田 光子

1月22日、パレスホテル大宮にて新年団体交流会が開かれました。加盟団体の代表の方々と共に和気あいあいとした中で進められました。

記念すべき10回目とあっておみやげのあみだくじはいつもの年とは違い、外れなしとのこと



アマダくじ大当たり！みなさんうれしそうね

で私も2等賞でお菓子が当たりました。

初めて参加させていただきましたが、各団体の方々のお話を伺うと、自分の家族会だけの問題なのかなあと今まで思っていた役員の後継問題が、他の会の皆さまも同じ悩みを抱えておられることを知りました。

話しは変わりますがイギリス

では我々のような無償の介護者の事をケアラーと呼んでいて16歳以上の介護者に対して、一定の条件のもとに手当が支払われ、介護者が休息出来るようにとの配慮がなされているそうです。平成22年にイギリスを参考にして日本ケアラー連盟が結成されましたが、その基本方針の中に「地域での活動などを続けられるようにする」という文言があります。現在、家族のおかれている状況を見ていると家族だけで何としても頑張らなくては、等と考えるとしても無理をしがちですが今後、我々の団体に一般からの支援者が入って来てくれることにより、違った角度から見えてくることもあり、活動がより柔軟に行えるのではないかと考えたりしています。今年も皆様に御指導いただきながら無理のない範囲で活動をさせていただけたらと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

## 事務局だより

十二月三日、午後から理事会の準備をしていた最中、会員の方から一報が入りました。会長の浅輪さんが事故で救急車で運ばれましたが、詳細はわからないとのことでした。役員の方にお願いをして、急遽、病院に行ってもらい様子を見てきて欲しいとお願いをしました。命には別条はなく、意識もあるとのこと、みんなで、ホッとしました。

それから、事務局は浅輪会長を頼りにすることなく、やっていかなくてはなりません。私ではどうしようもないことがあります。大事な決断をしなくてはいけないことは、役員の方の力を借りて、時には、お見舞いと称して、事務局会議を病室で行い、なんとか、やってきましたが、もう、これ以上心配をかけないで下さいね。浅輪さん！

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

一三三-一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子